

H27 シリーズ学習会

主催 リスコミ職能教育プロジェクト（北大農）

協力 札幌消費者協会／北海道大学 CoSTEP／他



旧ポプラ並木



食資源研究棟



農学部正面



農学部のロゴ

H27 テーマ：5年目の福島～食の農の現場をつなぐ

第1回 「農地と農作物はどうなったか」

【日時】 8月4日（火）12：30～15：30

【会場】 北海道大学農学部 食資源研究棟3階 セミナー室 F318
札幌市北区北9条西9丁目

【講師】 信濃 卓郎 先生 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）
東北農業研究センター福島研究拠点農業放射線研究センター長

【仕組】 学習会付き意見交換会

【プロフィール】

1962年11月6日ロンドン生まれ。北海道大学農学部及び大学院農学研究科で学ばれ、1990年より2008年まで助手および助教授として研究と教育に携わられました。この間、ブラジルのサンパウロ大学やドイツのマルティンルター大学で研究員を兼任され、北海道大学科学コミュニケーター養成ユニット（CoSTEP）にも関わられました。植物栄養学や土壌学（植物の根と周囲の土壌）、環境農学等を研究分野とされています。



2008年に農林水産省所管農研機構北海道農業研究センター根圏域研究チーム長に転じ、東日本大震災直前にはセシウムも含めた微量元素の植物への取り込みについて研究されていました。2013年から福島に移られ、福島の農業再建への取り組みに尽力されています。

ご趣味は自転車で、ロードレースのツールド北海道を楽しんでいたと聞いています。

次回以降 第2回 9月4日（金）12：30～15：30 食資源研究棟セミナー室 F318

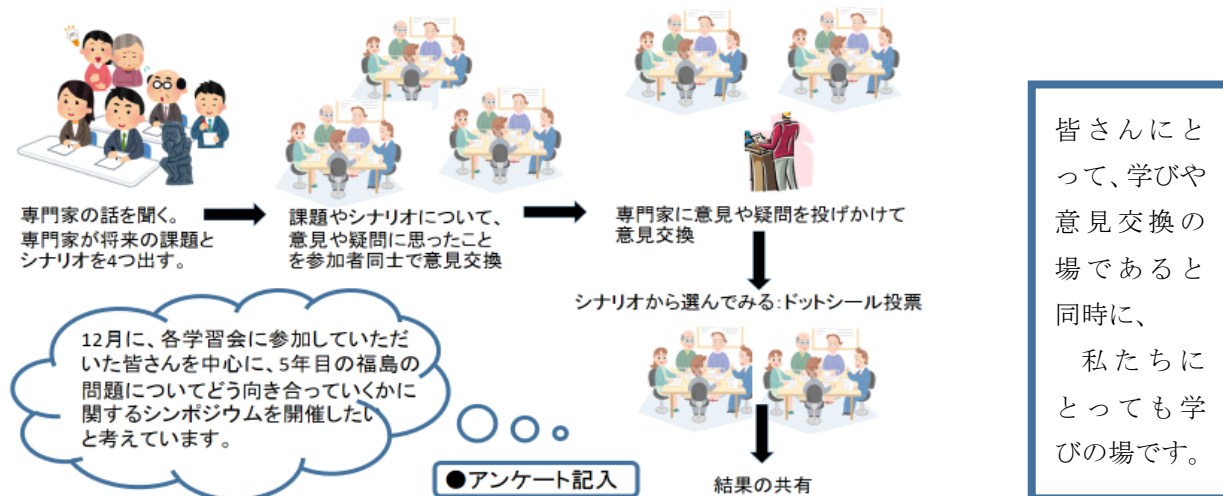
「海はどうなったのか」 神戸大学教授 川井浩史さん

第3回 10月26日（月）同上

「メディアは私たちにどう伝えたか」 交渉中

1) 内容

◆いま一度、福島のことをシリーズで学び考え、専門家とともに意見交換してみませんか？



◆言葉の説明

ファシリテーター：話し合いや意見交換が公平に行われるよう働く進行役。

ポストイット：付箋紙。考えや意見などを1枚に1つ書き込みます。何枚でも使って下さい。

(使い方のヒント)

専門家の話を聞きながら、分かったこと・分からなかったことを夫々書く。

話し合いの時に、書き込んであるポストイットを参考にする。

意見を書く（あれもこれも盛り込まず、1枚に1つの内容を）。

用意したラッシュンペンを使って下さい。

エンタ君：テーブル兼意見貼り出しボード。丸型。グループ対話で膝の上に乗せて使います。

ポストイットを貼付けたり直接書いたりします。中央をまとめコーナーにしました

2) プロジェクト事業の概要

本プロジェクトは、平成26年度から5カ年計画で文部科学省の事業採択を受け実施するもので、リスクコミュニケーション能力を身につけた人材の育成を目指しています。

そのために、学習と実践の両面から構成される適正・妥当な教育カリキュラムを考察します。また、実践の場を通じリスコミの現場を知る一方、現場の人々への知識とリスコミの知を啓くことを目指します。

なお、プロジェクトでは様々なリスク問題を多角的に扱い、ステークホルダーらと共に共感を生むコミュニケーションの場を構築し、その定着を図ることを目指します。

3) シリーズ学習会の目的

学習会(3回シリーズ)は人材育成の一環として取組むものであり、参加いただいた皆さんにアンケートを実施するなどして、人材育成プログラムの構築に向けた情報収集を図りたいと考えています。12月6日に、各学習会に参加していただいた皆さんと一緒に、5年目の福島の問題についてどう向き合っていくかに関するシンポジウムを開催します。

＝ 本日のプログラム ＝

1. 開会
12:30～12:35 (5分) 開会+本日の手順
2. 信濃先生の話「農業再建への取り組み」を聴く
12:35～13:10 (30分) 現状を知る
13:10～13:25 (15分) Q&A
13:25～13:35 (15分) 残された問題群と今後の課題
4つのシナリオ。
3. 移動 (5分 机席→エンタ君席: ラッションペンとポストイットも持って行く)
4. 語り合い (4グループ)
13:40～14:10 (30分) 語り合い (1) 4つのシナリオをもとにした意見交換
意見や疑問点の出し合い代表質問を決め(エンタ君)
14:10～14:45 (35分) 語り合い (2) エンタ君の持ち寄り (中ほどに移動)
グループ代表質問と講師の返答 (計5分以内) 20分
10分間の自由質問
14:45～15:03 (18分) 語り合い (3) エンタ君席で
シナリオ投票…シール2枚
投票結果の共有…各グループのシールの数発表
合計数の発表 (サブ F)
5. 移動 (1～2分) 最初の長机席に
6. しめくくり
15:05～15:10 (6分) 信濃先生のリプライ
15:11～15:15 (5分) 中村由美子氏 (中村牧場・代表) のコメント
15:16～15:19 (4分) プロジェクト統括の小林より挨拶
7. 参加者アンケート
15:20～15:30
8. 閉会宣言 15:30

◆信濃先生から皆さんへの課題と4つのシナリオ

あたかも農産物の放射性物質汚染は終わったかのような状況ではあるけれど、お金でなんとか抑えているのが実情(大量のカリ資材の投入)。

賠償金がなくなったとき(迫っている)、従来通りの移行抑制対策を継続できない。カリの供給を維持できないと基準越えを抑制できるかどうかの判断は難しい。

未来のシナリオ

- 1) リスクがあることを前提で移行抑制対策を中止して営農を続ける(基準値超えが発覚した場合は、それぞれについて対応。現在のようなモニタリング体制はとらない)
- 2) 新たに予算(東電、国、県?)を確保し現状の体制を継続する。
- 3) リスクがある地域は農業活動を制限し、試験栽培を継続してリスクがなくなるまで待つ(放射性セシウムの減衰を待つ)
- 4) カリ供給が可能な地域資源の活用(ワラの還元など)を組み合わせた移行抑制対策を推進する(コストはかかる)

～メモ～